

## 「可美（かみ）」の由来

明治22年（1889年）市町村制の施行により、増楽・若林・東若林・明神野・東明神野・海老塚・浅田・伊場・東鴨江の9村が集まって、浅場村となりました。

明治41年（1908年）に海老塚・浅田・伊場・東鴨江の4村が浜松町に編入され、明治43年（1910年）に入野村から高塚が編入されましたが、「浅」「場」という村名の意義が無くなったため、大正3年（1914年）3月10日当時の浜名郡長で漢詩文に秀でた鈴木七二郎氏が「可美」の2字を選定しました。昭和24年（1949年）明神野と東明神野が浜松市に編入されました。そして平成3年（1991年）浜松市と合併し、それぞれの字は町名として残ることになりました。

## 高塚町（たかつかちょう）

昔、村人が津波の犠牲者を熊野神社の裏山に葬り、たくさんの砂を浜から運んで上に盛り上げました。大きな塚状の墓であったので「大墓（おおつか）」・「大塚」と呼ばれ、いつしか高い塚「高塚」と呼ばれるようになりました。

## 増楽町（ぞうらちょう）

室町時代、永享4年（1432年）9月、六代将軍足利義教（あしかがよしのり）公が駿河（現在の静岡市付近）から京都の館に帰る途中、この北増楽にあった非常に大きくて立派な老松を見て感嘆しました。将軍に随行していた堯孝（ぎょうこう）僧正が和歌に『たが代にか 植えておきな松が根に けふ顕はるる君が千とせぞ』と詠みました。その後、村人たちはこの松を「於岐奈乃末都（おきなのみつ）」、または「叟羅之松（ぞうらのまつ）」と呼びました。この美しく立派に老いたる松の生えてる土地であるので「叟羅」、そして「増楽」と呼ばれるようになりました。

## 若林町（わかばやしちょう）

昔から若林は桃の里として知られていました。桃はよく厳冬に耐えて一番先に新芽を出します。冬枯れの若葉のないときに春を告げるとともに、農業の胎動を知らせ、花はなんともいえないほど美しい。特に桃の若葉のころが美しく、この若桃の木が林のようにこの地にあったので「若林」と呼ばれるようになりました。

## 東若林町（ひがしわかばやしちょう）

今から約360年前の寛文3年（1663年）に「若林領家」とっていたのが改められ「若領家」となりました。その後、延宝4年（1676年）に若林の東にあるので「東若林」に改められました。

### 令和3年度 南区地域力向上事業 地域愛称マップ(可美地区)

企画・発行 / 浜松市  
(浜松市 南区役所 区民生活課 可美協働センター)

御協力 / 可美地区自治会連合会

- ・高塚町南自治会
- ・高塚町北自治会
- ・増楽町自治会
- ・若林町西自治会
- ・若林町東自治会
- ・若林町北自治会
- ・東若林町自治会

三浦宏之 氏(元可美村誌 執筆委員)

参考 /

- 美しかるべき里 愛称標識(可美地区愛称標識設置委員会)
- 可美村誌(可美村)
- 美しかるべき里 可美村写真集(可美村)
- 可美村写真集(可美村)
- 南区ガイドマップ(浜松市南区役所区振興課)

引用 /

- 美しかるべき里 愛称標識(可美地区愛称標識設置委員会)
- 可美村誌(可美村)

デザイン・印刷 /

株式会社クリエイティブプロジェクト・ズーム